

地域おこし協力隊活動記

すぐに実践したいことが学べる6次化創業塾

皆さん、こんにちは。協力隊は地域に住みながら地元の情報を発信しています。今回はその取り組みについて書きます。

情報を集めるには現場に足を運ぶことが有効だと感じています。話を聞きに直接人に会ってみると、求める情報の他に思いがけないエピソードを語ってもらえることがあります。それが最大の収穫であり、面白い所であると思っています。

お聞きした事を誰かに伝える時には、デジカメを活用します。文章だけでは伝えきれないものを撮影して集めます。そして、フェイスブックなどを利用して写真と文章をセットにして投稿しています。

この取組みが大事な理由は、身近な物の価値に気付くことにあると思います。地域の小さな出来事でもよその人に知らせると、さまざまな反応があり、時には地元では当たり前とされている事柄が他では案外珍しいものだと気付くことができます。

情報発信は、この地域のファンを増やすことだけでなく、自らの価値の再発見にも役立つと感じています。



古崎です！撮影に必須の大切なパートナー。
6年ぐらい愛用しています。

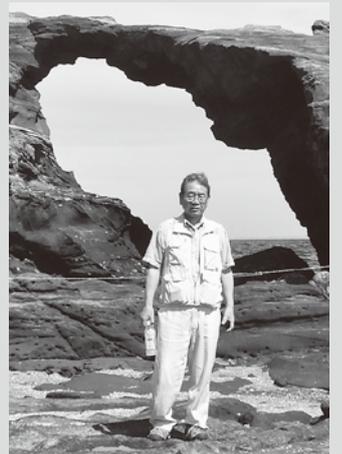


小野町は美しい風景に囲まれています。時刻や季節によって異なる光景を目にするには大変贅沢で、地元に住んでいないとそういった機会は少ないと感じます

飛ぶ白鳥の群れを撮りました

ふるさと小野町会

ふれあい通信



吉田 徳一

よしだ・のりかず

- 夏井出身
- 神奈川支部

『夏井川』と『矢大臣山』

ふるさとを離れて50年が経過しました。月日の経つのは早いものです。50年前まで過ごしたふるさとを今思い起こすと「夏井川」と「矢大臣山」が最初に浮かびます。小野町が誇る雄大な自然の代表格で、人々の日常生活に欠かせない存在です。

「夏井川」は現在、夏井地区では改修後「夏井千本桜」という花見の名所になり観光でも貢献しているようです。私がいた50年前は蛇行していて梅雨どきや台風などの時、氾濫して田畑に被害を与えたりしていました。しかし、稲作など生活には欠かせません。子供たちにとっても最高の遊び場でした。当時の蛇行した川は護岸も自然のまま、湾曲になっている所は深く濶んでいて川底にはシルト(粘土と砂の中間)質の土壌が沈殿していてカラス貝などがおり、足で探って獲ったものです。護岸に近い草木が覆い被さる様な場所にはフナ・ハヤ・タナゴなどの小魚類の群れがいたりしてガラス箱で覗いて

ヤスで獲ったりしました。湾曲部の反対側は水深も浅くなり砂礫で水面上に露出している部分もあつたりして川遊びにはもってこいでした。

「矢大臣山」は小学4年生のころだったかと思いますが、遠足で初めて登りました。つつじが満開だった記憶がありますので初夏の頃だったと思います。頂上付近の満開のつつじも見事でしたが初めて見るこの高さからの眺望に感動したことを覚えています。その後、高校生のときに友達と再び登りました。つつじの記憶があったのでこのときも初夏を選びました。最初に登ったときと同様に満開のつつじも眺望も最高でした。平成23年3月の東日本大震災の後、矢大臣山は小野町を守ってくれました。これは偶然とはいえ小野町にとって幸運でした。私は夏井川と矢大臣山に守られた我が町が自分のふるさとであることに幸せを感じています。